

# 「包装材料の機能とこれからの社会的意義」を テーマに愛媛大学の学生を対象とした 包装啓発セミナーを開講

公益社団法人日本包装技術協会（東京都中央区 会長：尾崎元規）は、12月11日（木）に愛媛大学紙産業イノベーションセンターにおいて包装啓発セミナーを開講した。この取り組みは、学生の包装に対する理解をさらに深めることをねらいとし実施したもの。

本講座では、「包装材料の機能とこれからの社会的意義」をテーマに、公益社団法人日本包装技術協会技術参与の水口眞一氏が講演を行った。包装材料の基本的な機能、それに加え、

品質面、衛生面、安全面、環境面、高齢者・障がい者配慮などの世界的トレンドをもとにした商品包装の開発が必要不可欠であり、生活に密着している包装は世の中の流れに大きく左右されるため、デザインや売りに上げに直結するマーケティングの観点からも注目されていることなどを解説した他、それらの包装産業の社会性や規模等を前述した上で、昨今流通している包装商品の改善合理化事例を交えながら、21世紀の包装産業のキーワードや社会的意義について紹介した。

紙産地の紙研究機関として重要な役割を担っている愛媛大学からは、紙関連の修士課程の学生が参加した。地域産業の繁栄を期するための新しい商品を開発する研究などを進めている。そのため、紙の特性等については熟知しているが、包装という切り口からの講演のために新鮮味があり、興味を持って熱心に聴講いただいた。包装の機能、特に紙の機能性付与については、大きな関心を示していただき、講演後の質問では、紙の将来性、機能性の付与の仕方、バイオマスの開発状況、二酸化酸素

の減少と紙との関連といった、積極的で前向きな質問が多かった。

当協会の存在と包装が果たす役割や重要性について、学生に対し大いに啓発することができ、今後優秀な学生に包装業界への興味をもっていただけるよう今後も一層の普及啓発活動を推進していく。



包装啓発セミナーの様相



◀ 御講義終了後の集合写真